

令和3年度 第60回岐阜県学校保健研究大会を終えて

羽島郡学校保健会

1月7日（日）、羽島郡岐南町立西小学校において、第60回岐阜県学校保健研究大会を開催しました。オンライン開催という、新しい時代に即した新しい試みに挑戦した次第ではありますが、多くの方に視聴していただくことができました。

「児童生徒の健康でたくましい心身の発達を求めて～体力の向上といじめ防止～」という大会テーマのもと、3つの部会からの研究発表や記念講演を行いました。

開会式では、岐阜県学校保健会会長の河合直樹様、岐阜県教育委員会教育次長の高橋宗彦様、本大会実行委員長の赤座壽様よりご挨拶をいただきました。

岐阜県学校保健会表彰では、34名（団体含む）の方が表彰されました。また、学校環境衛生活動優良校表彰では、35の幼稚園、小・中・高等学校が表彰されました。

研究発表では、はじめに、学校医部会から笠松町立笠松小学校医・伊藤康氏が「子供の睡眠医学」について発表しました。日本の児童生徒の睡眠時間は、世界各国と比較しても非常に短く、慢性の睡眠不足の傾向にあることや、睡眠時間と学業成績との相関性等から、適正な睡眠が健全な心身の成長に必須であることが述べられました。

次いで、養護教諭部会が「健康課題に気づき、主体的に健康な生活を実践できる子をめざして～新型コロナウイルス感染症予防対策を通じて～」について発表しました。新型コロナウイルス感染症拡大防止のための様々な取組を通じて、児童生徒の実態に合った保健指導を行い、差別偏見の観点を指導したことによって児童生徒の心身の健康を守ることができた実践に



ついて発表しました。

最後に、栄養教諭部会が「生涯にわたって自ら健康なからだと豊かな心を育む食生活を実践することができる児童生徒の育成をめざして～学校給食を通して、学校教育活動全体で取り組む食育の在り方～」について発表しました。生きた教材となる魅力ある学校給食として、「名作おはなし給食」や研修とのコラボレーション給食を提供するなど、様々な切り口から食に関する指導を展開し、児童生徒が食を楽しみ、食に関する知識・理解を深め、食に対する意識が高まったことによって、自らの生活の中で食について考え、行動する力をつけることができた実践について述べました。

記念講演では、「児童生徒の体力・運動能力の現状とその対応について」と題し、中部学院大学スポーツ健康科学部教授・有川一氏にご講演いただきました。羽島郡内児童生徒の新体力テストの結果を分析・検証してお話いただきました。前年度の全国平均の結果と比較すると、羽島郡内の児童は、長座体前屈や50メートル走の結果はやや優れているが、それ以外の項目ではやや劣っていることが分かりました。生徒は、長座体前屈やハンドボール投げの結果はやや優れているが、20メートルシャトルランや50メートル走の結果ではやや劣っていることが分かりました。児童生徒の体力・運動能力の向上のためには、身体活動の機会を増やすことが重要であり、取り組みやすいバルシューレというボール運動について紹介していただきました。また、運動が及ぼす脳の活性化について、参加者が実演を行うことで運動のメリットを体感することもできました。

このように、大変有意義で充実した大会となったと確信しております。

最後になりましたが、今後の岐阜県学校保健会の更なる発展を祈念いたしまして、第60回岐阜県学校保健研究大会の報告といたします。